

## 友愛政治塾の講師の一言

### 勉強の時間取れない都議会議員

塾長 西川伸一

「友愛政治塾を創設しよう」の「よびかけ」に「日本政治の劣化は著しく、基礎的な認識の獲得がいつそう求められています」と書かれている。まさにそのとおりだ。なにが日本政治を劣化させているのか。リアルにその現場を認識する必要がある。

年末に、ある都議会議員と話す機会があった。彼によれば、きょうはこれから三件の忘年会をはしごするのだという。各会場で次々に酒を注がれる。断るわけにはいかない。こうした各種業界団体の忘年会は一月からはじまる。彼はすでに四〇件以上に顔を出し、やっとあと六件まで来たところばしていた。

年が明けると一月四日の賀詞交換会を皮切りに、二月末までなんと約一五〇件の新年会をこなす。業種によつては、午前九時からというのもあり、朝から飲む羽目になる。

三月と四月の卒業式・入学式には、選挙区の小中学校で来賓としてあいさつする。五月と六月には各団体の総会があり、これにもよばれる。七月から八月は選挙区各地で開催される盆踊り大会を回る。九月には定例都議会議

が招集される。さらに党務もある。また、自分の選挙は四年に一度だが、国政選挙や市会議員選挙となれば、同じ党所属の候補者の応援に手を抜くわけにはいかない。自分の選挙に跳ね返ってくる。

結局、丸一日休めるのは年に四、五日だと嘆いていた。日々地盤をメンテナンスしなければ、再選はおぼつかない。いつ政策の勉強をするのか。票を出してやっているのだから議員は顔を出して当然という有権者のおごりが、政治の劣化に手を貸している。この現実

に私たちは気づくべきだ。  
(明治大学教授)